

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道6号 ^{つちうら} 土浦バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：茨城県土浦市中 至：茨城県土浦市中貫	延長	8.8km		
事業概要	一般国道6号土浦バイパスは、交通渋滞の緩和、安全性の確保及び地域産業の支援を目的とした延長8.8kmの4車線のバイパス事業である。				
S44年度事業化	S41年度都市計画決定	S47年度用地着手	S48年度工事着手		
全体事業費	約338億円	事業進捗率	74%	供用済延長	8.8km
計画交通量	39,600~48,700台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 5.8	総費用 (残事業)/事業全体 81/1,007億円 事業費：71/976億円 維持管理費：10/31億円	総便益 (残事業)/事業全体 469/1,287億円 走行時間短縮便益：329/1,010億円 走行経費減少便益：97/218億円 交通事故減少便益：43/59億円	基準年	平成21年
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 【残事業】交通量：B/C=5.2~6.3（交通量±10%） 事業費：B/C=5.3~6.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=5.5~6.0（事業期間±20%）				
事業の効果等	<p>(1) 土浦バイパス区間の渋滞損失</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和56年度までに全線暫定2車線で供用し、平成元年度までに約2.9kmが4車線供用。 土浦バイパスにおいて、交通渋滞が発生。多くの区間で県平均（1.1万人時間/年・km：片側車線）を上回る。 <p>(2) 地域産業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 土浦バイパス周辺には、工業団地や商業施設が立地し、近年では製造品出荷額や商業年間販売額が増加傾向。 土浦バイパスの整備により、アクセス性が向上し、地域産業の振興に期待。 土浦バイパス起点部～土浦千代田工業団地までの所要時間が短縮 				
関係する地方公共団体等の意見	土浦市・牛久市・つくば市の3市の市長・副市長・議長で構成される「一般国道6号・都市計画道路牛久土浦線等建設促進期成同盟会」より、早期4車化整備の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	土浦バイパスの沿道には、宅地や教育施設、商業施設等などの立地が進行し、平成元年度の一部4車供用により交通量が増加、旅行速度は年々減少、混雑度は増加傾向にある。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	昭和56年度までに全線暫定2車線で供用し、平成元年度までに約2.9kmが4車線供用済みである。用地取得率は100%である。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	全区間の用地取得は既に完了しており、計画的に工事の推進が可能。今後は、暫定供用区間の4車線化を図り、全区間の早期供用を目指す。				
施設の構造や工法の変更等	-				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上より事業の必要性、重要性は高いと考えられる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。